

伸びゆくおおむら

大村市は、県央の中核都市としてさらなる発展を目指すため、大型プロジェクトを着実に推進し、都市機能をより一層充実していきます。

【新市立大村市民病院】

地域医療の中核病院としてさらなる機能強化に向け、改築を行っています。平成29年4月から新病院で開院し、平成30年にグランドオープンします。

【木場スマートインターチェンジ】

高速道路へのアクセス向上や幹線道路などの交通円滑化を図るため、ETC搭載車が利用可能なスマートインターチェンジを設置し、平成30年に開通します。

【長崎県立・大村市立一体型図書館及び大村市歴史資料館(仮称)】

県民・市民を支える知の拠点として、県立図書館と市立図書館の合築による一体型図書館の整備を進め、平成30年度末頃の開館を目指します。

【新工業団地】

企業誘致の受け皿となる新しい工業団地を雄ヶ原町に整備し、産業振興や雇用拡大を図ります。平成31年度に分譲を開始する予定です。



長崎県立・大村市立一体型図書館及び大村市歴史資料館完成イメージ図



木場スマートインターチェンジ完成イメージ図



新市立大村市民病院完成イメージ図

大村の未来

〔都市計画道路池田沖田線〕

国道34号のバイパス機能を有し、市街地の渋滞の緩和と、新幹線新駅や高速インターチェンジ、空港へのアクセス向上を図る主要幹線道路です。平成27年に県内初の自転車道を備えた小路口工区が開通し、全線開通に向け整備が進められています。

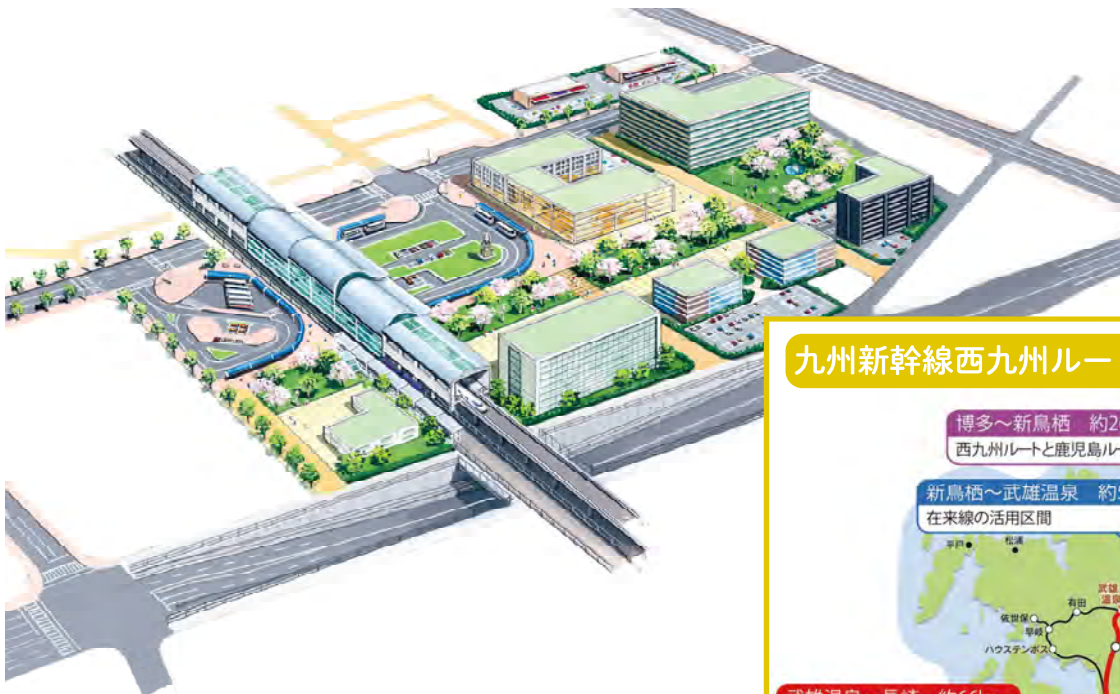
〔九州新幹線西九州ルート〕

武雄温泉駅～長崎駅間が新幹線フル規格により整備され、市内のほぼ中央部に「新大村駅(仮称)」が設置されます。平成34年度の開業に向け、現在、着々と建設工事が進められており、開通すると新大村駅から博多駅まで約1時間13分、長崎駅まで約17分と所要時間が大幅に短縮されます。

〔新大村駅周辺整備〕

東西のアクセス道路や駅前広場をはじめ、多良山系を見通す「森の道公園」などの公共施設が整備される予定です。また、周辺は、賑わいや交流の拠点となるように積極的な民間活力の導入を図ります。

「空港」、「高速道路インターチェンジ」そして「新幹線駅」が5キロ圏内に揃う、全国でも稀に見る立地の大村市は、県内を代表する高速交通拠点都市としてこれからも発展を続けます。



新駅周辺パース図(イメージ図)



都市計画道路池田沖田線整備予定図



新工業団地イメージ図